

日本は自由な国だ。法律が許す限り自由な発想と発言が許される。だから誰が何を言おうが勝手な話だ。ただ、「R'on」誌を読んでいて気になった記事があったので、私も「自由に」そのことに触れたい。

掲載コラムの一つに、ジャーナリストの所感を書くページがある。時は最近、丁度、国会議員がモータースポーツを推進するというニュースが流れた頃である。ある女性ジャーナリストの記事であったが、前述の国会議員のネタに絡みつつ、この方のレースに対する要望、希望が綴られていた。

その最後のへんの記述で、レースエンジニア達を育成するために留学制度などを設けたり、公的予算を組んだらどうか、というようなモノがあった。

前記の通り、誰が何をどう考えようが、それは個人の自由である。だが私は思う。これ以上日本を「ぬるい」国にしてどうしようというのか。たんに言えば、公的資金をそんな無駄な事に使って欲しくない。まだ国民年金に使われる方が幾分マシだ。

これはレース業に関わらず、学業などあらゆる物事に通じると思うのだけれど、本当に優秀な人間はきっと、周りが色々与えなくても行動を起こす人間のことを言うのではないだろうか。

例えば留学などは「海外で暮らす」という甘い幻想を抱いて渡航し、文化のギャップに幻滅して帰国する、というケースは決して稀ではない。特に最近流行りのバック留学などは、「全て」が用意された、ぬくい環境の中へ「浸かる」だけで良いのだから、強烈な開拓精神もハングリー気質も必要としない。勿論、こういう体験を全て否定するわけではないが、この手の留学をしたからといって果して、「どこまで」「何を」学んだというのか。

そもそも、日本でキチンと出来ない人間が海外へ行けば何かを体得出来るとは思えない。物事を新たに吸収する場合、様々な経験や知識、知恵などのバックグラウンドが大きいほど、「未知」の事柄にも対応が容易になる。一見、まったく異なる内容であっても、実際の所、その理論、方針、哲学などは不思議な事に何らかの形でリンクしている場合が多い。

例えるなら、料理上手な人は、初めてでかつて経験のないレシピでも、大きくハズれることなく味を整えられる。これはこの人の料理に対する経験がそうさせるのであり、ある程度の物事に対する組み立てが出来たからこそ、全く初めての料理でもあらかた推測できるのである。

そもそも「優秀な人」とはこういう人材ではないか。しかしどんなに優秀な人間でも、その域に辿り着くまでに数多くの失敗や教訓を知っているからこそ、更に新たな経験へと発展し、相対的に器が大きくなっていくのではないだろうか。

そのためには、「学びたい」と考える人間は自己でリスクを背負わなければ駄目だ。若ければ若いほど、初めてであるなら初心者ほど。

特にレースの仕事なんて、人一倍「瞬間の判断力」や「柔軟性」「センス」など、人に教えてもらってどうにかなるモノではない実力が問われる世界だ。そのためには自分が自分を磨くしかない。

そのチャンスは自分で開拓するべきであって、人に与えられる物ではない。というのが私の意見だ。こと、レース業に関しては、「モノ作り大学」のような関連学校の存在は大変素晴らしいと思う。また、国費留学できる人材もまたしかり、である。

しかし仮にも血税から搾り取った国費を、人命を救う「医学」でも、文明を発展させる「科学」でも無い「レース」に使って良いのか？ もっと有意義な税金の使い道はもっとある筈である。

レース業の内容は携わる関係者が何とかするべき課題であって、国が出てくるほど大袈裟な問題ではないと思うのだが、どうだろう？

